

# 教育・子育て

## 施策の方向性



子どもを生き育てることについての大切さに関する県民理解を深め、子育てを地域で支える環境づくりを進めます。また、子育て中に、男女がともに仕事と子育てのバランスのとれた生活ができるよう企業の子育て支援活動の促進を図ります。

子どもに対する身体的・精神的な虐待の未然防止、早期発見、再発防止のために児童相談所や児童福祉施設の取組みを充実します。また、様々な課題を抱える子どもたちの社会的自立を支援します。

基礎・基本の学力が定着し、主体的に課題を解決できる力を身に付け、自分の生き方や働くことの大切さを考える教育や地域に貢献する活動を推進するなど、神奈川らしい教育を推進します。また、いじめ・不登校を未然に防止し、早期に発見するために豊かな人間関係づくりを進めます。心の問題を抱える子どもたちに対しては、自立に向けた相談体制などの充実を進めます。

ひきこもりなど悩みを抱える青少年に対しては、NPOと協働・連携して自立に向けた総合的な取組みを進めます。さらに、青少年の喫煙・飲酒を防止する社会環境を整備するなど、青少年の健全育成に向けて社会全体で協力する体制づくりを進めます。

信頼あふれる学校づくりのため、高い指導力と意欲をもつ教職員を確保・育成し、家庭や地域とつながりを深めるとともに、県立高校の耐震補強工事などを行います。また、私立学校への助成などを行います。

学校では、国際化や情報通信技術の進展など時代の変化に対応できる人づくりを進め、地域では、生涯学習機会の拡充を図ることにより、様々な学びの意欲に応えます。



## 戦略プロジェクト16

# 子ども・子育て支援のしくみづくり

### 戦略プロジェクトのねらい

地域における子育て支援の充実を図り、子育て世代の仕事と家庭の両立をめざすため、保育所入所待機児童の解消を図るとともに、教育と保育を一緒に行う「認定こども園」などの新たな取組みの促進や、放課後児童クラブ(いわゆる学童保育)の充実を図ります。

また、地域・事業者と連携し、家庭教育の重要性について情報提供を進めます。

### 取り組む事業

子育てに関する相談や情報提供の体制づくりを進めるとともに、家庭や家族、いのちの大切さについて理解を深める家庭教育の充実を図ります。

事業者における子ども・子育てに対する取組みを支援するため、積極的に取り組む企業を県が認証するとともに、必要に応じて専門家を派遣します。

保育所入所待機児童の解消に向けた取組みを進めるとともに、休日保育や私立幼稚園預かり保育への支援など多様な保育サービスや放課後児童クラブの充実を図ります。

### 目標 - ア 子ども・子育て支援に取り組む認証事業者の数(累計)

現状(2006年度)

— 者

2010年度の目標

800者

### 目標 - イ 認証事業者のうち中小事業者の数(累計)

現状(2006年度)

— 者

2010年度の目標

400者

### 目標 県所管域(政令市及び中核市を除く)の1保育所あたりの入所待機児童数(単年度)

現状(2006年度)

1.32人

2010年度の目標

1未満人



保育園で遊ぶ子どもたち



地域での子育て支援

## 戦略プロジェクト17

# 支援を必要とする子ども・家庭への総合的な対応

### 戦略プロジェクトのねらい

近年深刻さを増している児童虐待を未然防止・早期発見・早期解決するために、市町村職員に対する研修を充実するなど、一次的な対応を行う市町村と協力して、すべての子どもと家庭を社会全体で支えるしくみづくりを進めます。

また、ADHD(注意欠陥多動性障害)や学習障害などの発達障害のある子どもの相談窓口や、教育現場における支援体制を整備します。

### 取り組む事業

児童虐待の一次的窓口である市町村職員に対する研修や、個別ケース検討会議への専門家の派遣などにより、児童虐待の未然防止・早期発見・早期解決を図ります。

発達障害のある子どもに対する専門支援スタッフによる巡回相談や、教育相談コーディネーターの養成を行います。

虐待被害を受けるなど、家庭での養育ができなくなった子どもが入所する児童養護施設を整備するとともに、より家庭的な環境で養育することのできる里親やグループホームなどでの支援を進めます。

### 目標 施設入所等が必要な子どものうち里親家庭やグループホームなどの家庭的な環境のもとで養育されている子どもの率

現状(2006年度)

38.0%

2010年度の目標

60.0%

### 目標 専門支援スタッフが発達障害児者への巡回相談等を行う回数(単年度)

現状(2006年度)

— 回

2010年度の目標

50回

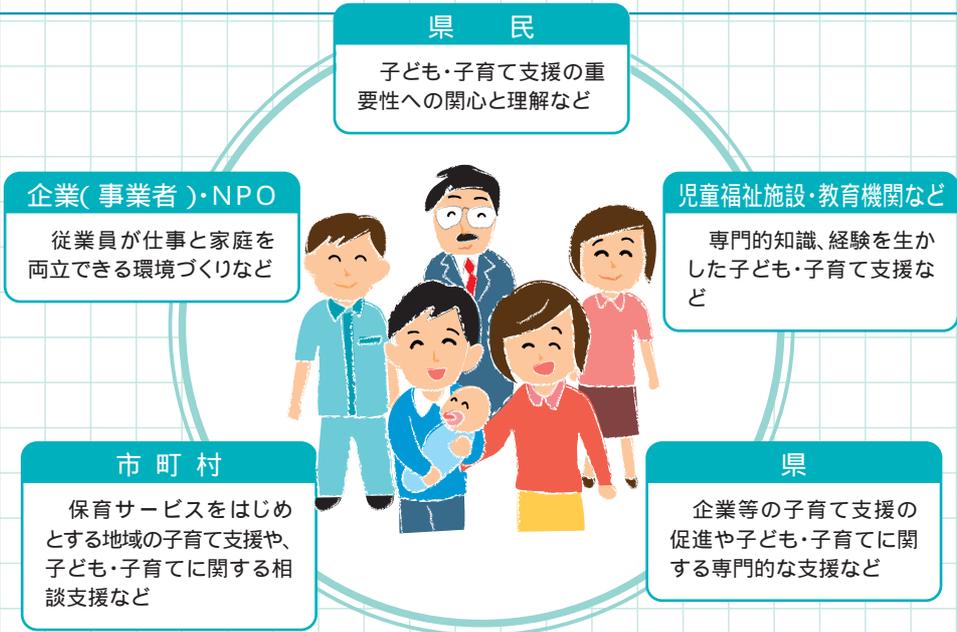


守りたい子どもたちの笑顔



### 主な担い手ごとに期待される役割(例)

戦略プロジェクト16・17の主な担い手ごとに期待される役割(例)は、次のとおりです。



実施計画

## かながわの子ども・子育て支援について

### 年齢に応じた支援

#### 未就学の子どもには...

- 保育所の待機児童解消
- 休日保育など多様な保育サービスの拡充
- 認定保育施設への支援など

#### 学齢の子どもには...

- 障害児の放課後活動の場の確保
- 放課後子ども教室(体験活動や交流活動などの取組みの推進)の設置
- 放課後児童クラブ(いわゆる学童保育)への支援など

#### 年齢にかかわらず...

- 地域での子ども・子育て支援
- 家庭の子育て力・教育力の強化支援など



### 家庭環境や子どもの状態などに応じた支援

#### 児童虐待への総合的な対応

- 児童虐待の未然防止・早期発見・早期解決のしくみづくり
- いつでも相談できる体制の強化や市町村職員などへの研修
- 児童養護施設の改築や新設など

#### 様々な課題を抱える子どもたちへの支援

- 発達障害児者を対象とした専門支援スタッフによる巡回相談
- 教育相談コーディネーターの指名と養成など

戦略プロジェクトのねらい

青少年が心豊かに育ち、自立できる社会づくりに向けて、豊かな人間性と社会性を育む体験や学習の機会を提供します。

また、ひきこもりや不登校、非行など、青少年の悩みにきめ細かく応える相談体制を整備するなど自立に向けた支援を行います。

さらに、青少年をとりまく社会環境の健全化に向けた取組みや非行防止の取組みを社会全体で協力して進めます。

取り組む事業

青少年の多様な体験活動を促進するため、指導者人材の育成や科学体験などの機会を提供します。

青少年が抱える悩みに対応するため、青少年サポートプラザの相談体制を充実するとともに、居場所づくりや自立支援に取り組むNPOへの支援を行います。

学校、地域ボランティア、NPOとの協働・連携により、少年の非行防止や立ち直りを支援する「大学生少年サポーター」を配置します。

青少年の喫煙や飲酒を防止するため、関係団体などと協働・連携して自動販売機等への対策を進めます。また、有害情報への対策を図るため、青少年保護育成条例に基づく立入調査などを実施します。

目標 県が実施する青少年を対象とした多様な体験事業への参加者数(単年度)

現状(2006年度)

171,202人

2010年度の目標

175,000人

目標 社会環境健全化推進活動への参加者数(単年度)

現状(2006年度)

59,094人

2010年度の目標

65,000人



青少年喫煙・飲酒防止イベント



主な担い手ごとに期待される役割(例)

県民

地域における青少年の健全育成に向けた取組みへの協力など

NPO

青少年の自立に向けた多様な取組みの実施など

企業(事業者)

社会環境の健全化に向けた施策への協力と自主的な取組みの推進など

市町村

地域における青少年の健全育成に向けた取組みの推進など

県

青少年の自立と社会環境の健全化に向けた総合的な取組みの実施と協力体制づくりなど



## 戦略プロジェクト19

## 不登校、いじめ、暴力行為への総合的な対応

## 戦略プロジェクトのねらい

すべての子どもが、豊かな人間性や社会性を育めるよう、様々な体験的な活動の充実を図り、いじめなどの問題の未然防止につながる教育を進めます。

また、子どもたちが、不登校やいじめ、暴力行為などのいわゆる問題行動を起こした際に、学校だけでなく、家庭や地域、NPOなどとの協働・連携により、早期解決のための支援を進めます。

## 取り組む事業

学校においてあいさつに対する意識を高める運動や、親子のコミュニケーションを深めていく運動を進めます。

NPOなどが有する専門的ノウハウを活用して、中学生を対象とした「いじめ予防教室」を実施します。

小学校における暴力行為などを防止するため、教職課程専攻の大学生をフレンドリースタッフとして派遣します。

公立中学校・高校の相談体制整備のために、スクールカウンセラーを配置するとともに、緊急時には専門の対策チームにより対応します。

フリースクールなどと協働・連携し、不登校児童・生徒の社会的自立や学校生活の再開を支援します。

## 目標 不登校児童・生徒に対する支援の割合

現状(2005年度)

78.3%

2010年度の目標

100%



神奈川あいさつ一新運動

## 戦略プロジェクト20

## 子どもたちが未来を拓く力を伸ばす教育の推進

## 戦略プロジェクトのねらい

子ども一人ひとりの「育ち」を的確にとらえ、生きることや働くことの大切さを考える機会が充実し、学ぶ力が着実に身に付くよう、学習環境を整備します。また、国際化や情報化の急速な進展などの時代の変化に対応できる教育を進めます。

さらに、障害の有無にかかわらず、すべての子どもがよりよい環境で学べるよう、ニーズに応じた教育を進めます。

## 取り組む事業

かながわ教育ビジョンの着実な推進に向けて、かながわ人づくりフォーラムを開催します。

確かな学力向上のため、小・中・県立高校において学習状況調査を行い、児童・生徒の学習達成状況を把握し、授業改善を行います。

児童・生徒の発達段階に応じて、勤労観や職業観を育てるキャリア教育を行うとともに、社会や経済のしくみの理解や政治参加の意識を高める教育を進めます。

県立高校への外国語指導助手の配置拡大、環境教育や科学技術・情報通信技術への対応など、これからの社会に対応できる教育を進めます。

障害のある児童・生徒の職業教育と教育相談を充実します。

## 目標 「学校の授業や学習活動は将来の自分のために役立つ」と答えた県立高校生の割合

現状(2006年度)

— %

2010年度の目標

80%



高校と特別支援学校との生徒の交流

## 目標 特別支援学校(知的・肢体・病弱教育部門)高等部卒業生の就職率

現状(2006年度)見込

25%

2010年度の目標

30%



意見を発表する高校生



## 戦略プロジェクト21

## かながわの学校力を高める教育環境づくり

## 戦略プロジェクトのねらい

教職員の大量退職時代を迎える中で、高い指導力と意欲をもつ教職員を確保・育成するとともに、信頼あふれる開かれた学校づくりを進めます。また、様々なニーズに対応できる活力と魅力あふれる県立学校づくりや特別支援学校の設置を進めます。

さらに、「県立教育施設再整備10か年計画」に基づき、児童・生徒が快適で安心して学習できる環境づくりを進めます。

## 取り組む事業

「教職員人材確保・育成基本計画(仮称)」を策定し、大学と連携した教員志望者のためのオープン型カレッジの開設や研修の充実などに取り組みます。

「県立高校改革推進計画後期実施計画」に基づき、新しいタイプの高校などの設置を進めます。

特別支援学校の設置と、分教室の整備を進めます。

「県立教育施設再整備10か年計画」に基づき、施設の耐震化対策や老朽化対策などを計画的に実施します。

公・私立高校が連携を強化し、「神奈川の高校展」を開催するほか、公・私立高校生によるボランティア活動などを行います。

多様な学びの選択機会と質の高い教育サービスを提供するしくみづくりについて検討します。

## 目標 学校環境に満足している県立高校生の割合

現状(2006年度)

— %

2010年度の目標

70%



体験活動報告会の様子

## 主な担い手ごとに期待される役割(例)

戦略プロジェクト19~21の主な担い手ごとに期待される役割(例)は、次のとおりです。

## 家庭

自己形成や進路実現に向けた確かな支援など

## 地域

異世代間交流や体験学習の場・機会の提供と人的支援など

## 学校

学校間・校種間の連携・協力の促進と、家庭・地域・企業など一体となった学校づくりなど

## 企業

職業観や社会性の育成への場・機会の提供と人的支援など

## 市町村

地域に根ざした信頼と協働による教育環境づくりなど

## 県

様々な教育の主体との協働・連携による信頼あふれる教育の推進と教育環境の整備など



## かながわ教育ビジョン

神奈川県教育委員会では、子どもたちへの教育をめぐる課題が複雑かつ多様化している中で、明日のかながわを担う人づくりを進めるため、本県の教育の総合的な指針となる、「かながわ教育ビジョン」を2007年8月に策定し、人づくりにかかわる様々な方々との共感・共有に基づく、協働・連携を一層進めていくこととしています。